



令和2年7月1日現在
総世帯数 7,852世帯
総人口 17,165人
男 8,601人
女 8,564人

**芳川** シニア短期大学  
講師：柏澤由紀一  
Vol.1

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの日常に変容を求めたばかりか、経済活動に大きな影響を与え、社会全体が逆境の中にあると言えます。今回、館報の紙面を借りてシリーズで紹介させていただくのは、芳川シニア短期大学で取り上げた小池九一（きゅういち）という知られざる松本人の生涯です。

九一は、10歳にして両親を失います。小学校にすら通えず、丁稚奉公に出ます。九一は、それを恨むこともなく、呪うこともなく、逆境に立ち向かい、それをバネにして、蓄えを恵まれない人のために使い、後に北海道に渡り、罪を犯した子どもたちの矯正に生涯をささげました。

## 報恩に生きてきた知られざる松本人

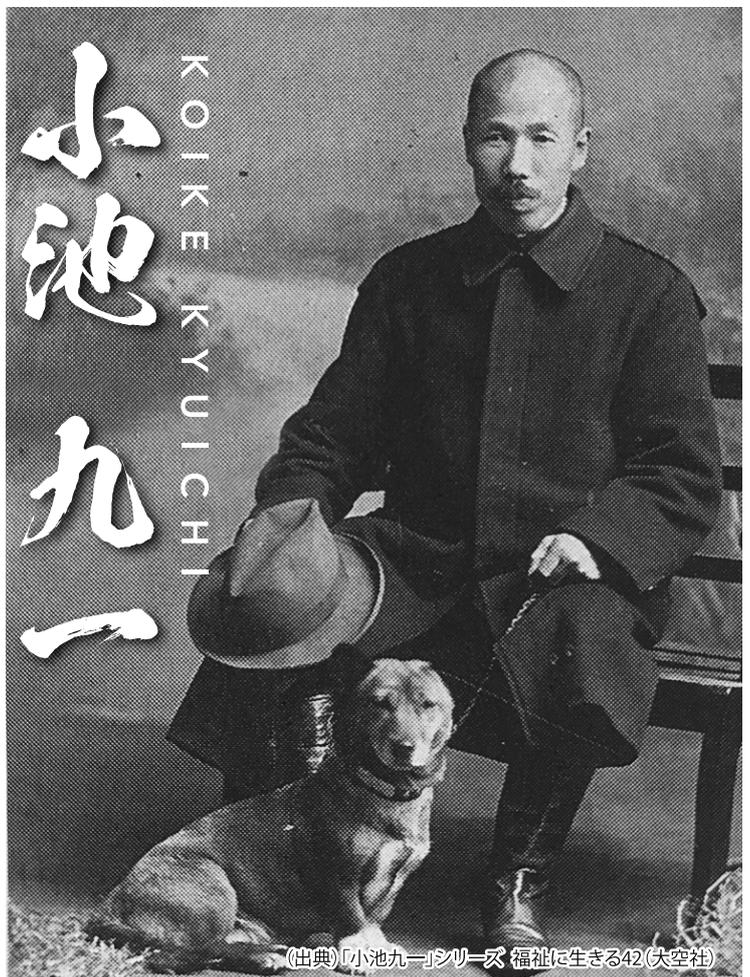
松本では、ほとんど知られていませんが、「北海道社会事業の父」とまで呼ばれた人です。

## 大店の長男に生まれた九一を襲った悲劇

小池九一は、明治11年博労町で綿や麻の反物を扱う卸問屋「鹿嶋屋」を営む九助、くへの長男として生まれました。下に妹と弟がいました。鹿嶋屋は江戸時代には帯刀を許された家で、大安楽寺にある墓には墓石が12基も並んでいます。

大店の息子として何不自由なく育った九一は、後に国宝となる開智学校に入学しました。その3カ月後、一家5人は商売繁盛と子ども健やかな成長を祈願するため、お伊勢参りの旅にでます。鉄道はありませんから、もちろん徒歩の旅でした。しかし、一家で松本に戻ることはありませんでした。

お伊勢参りの帰路、一家は外国船が行き交う横浜に廻りました。そ



KOIKE KYUICHI  
**小池 九一**

(出典)「小池九一」シリーズ 福祉に生きる42 (大空社)

こで九助はドル相場に手を出し、大損。松本の鹿嶋屋へ送金を求める始末に。九助を見限った鹿嶋屋の番頭たちは、勝手に財産を処分して関西へとんずらしてしまいます。

松本へ帰るに帰れなくなった一家は、東京での暮らしを始めますが、懲りない九助は、今度はコメ相場に手を出し大損。さらに九一が当時大流行したコレラに罹り生死をさまようことに……。母の必死の看病で一命はとりとめたものの、コレラが母にうつり29歳の若さで死去。九一ら3人は松本の祖母に引き取られたのでした。翌年には、父九助が東京で病死してしまいます。

相次いで両親を失った九一(10歳)、きよ栄(7歳)、庄三(4歳)の3兄弟は、孤児となり、余りに哀れな境遇にただただ泣くばかりでした。(つづく)

●芳川シニア短期大学受講者随時募集中！詳しくは芳川公民館まで

# Withコロナ時代へ〜コロナとともに〜

新型コロナウイルス感染症が列島に猛威を振う中、これからは「新しい生活様式」への対応が求められます。



一人ひとりができることを確実に実践することで、誰が罹っても不思議ではない新型コロナウイルスの感染拡大を防止しなければなりません。罹る・うつる・うつすを一人ひとりが自覚し、自衛に努め、前線で感染症と戦う皆さんに感謝し、相手への理解を示し偏見をなくすというウイルスとともに生きていく時代になりました。何ができるかを考え、行動しましょう。

## 防犯対策について〜村井・寿交番から地域の皆さまへ〜

現在県下で重点的に取り組んでいる施策が3つあります。

○特殊詐欺被害防止  
拡大が懸念されるのは、ウイルスだけではありません。特殊詐欺による被害です。全国ではコロナ対策に便乗した詐欺が横行しています。

そこで、被害を防ぐために3つを守ろう！

- ① キャッシュカードを渡さない
- ② 暗証番号を教えない
- ③ 家の電話を留守番電話に設定する

○高齢者の交通事故防止

高齢者の交通事故が多発しています。中でも、自転車による事故が、署管内でも1月から5月末までに5件発生しています。自転車は車両です。ルールを守り安全に利用し、ヘルメット等も装備しましょう。

○自転車の盗難防止

盗難事件の約3割は自転車盗です。少しだけの時間でも、備え付けの鍵とチェーン錠の二重ロックで被害を防止しましょう。



# 芳川の今昔物語

## 百瀬橋落成式



▲撮影年代不明



第30話

### その昔……

百瀬橋の竣工記念式典で、投げ餅をしているところ。羽織袴で正装した役員が、俵に入れた餅を投げている。河床が極端に浅く、石だらけの川原は今と様相が異なる。



▲2020年7月13日撮影

### 現在は……

現在の百瀬橋は平成元年8月の竣工のコンクリート橋で、平成29年度に補修工事されています。河床の深さと堤防の構造が違います。

## 館報合冊販売価格改定

通常価格4,000円を特別価格2,000円

お問い合わせは芳川公民館 (058-2034)まで

## たちばなし

春先からコロナ騒ぎが松本にもやってきました。感染者数は少ないながら、緊張の日々が続きました。この騒ぎが起る前、年齢80を

超える私は、人生の酸いも甘いも存分に経験し、もう思い残すことはない、在りし日の実母の写真を見ては「いつ、連れて行ってくれてもいいんだよ」と心の中で呟いていました。

しかし、コロナ騒ぎが始まると毎日マスクを着用し、スーパーでは手をアルコール消毒、鞆の中には除菌シートを携行。そんな私の姿を見て娘から「あれ？お母さん、いつあの世に行ってもいいんじゃないの？」と言われて自分でもハッとしました。

昭和、平成、令和の三つの時代を生き抜いたとっていた私でしたが、危険が来ると本能的に防御に走る一矛盾する思考に、やはり人というものは与えられた天寿を全うするという本能があるのだと実感しました。写真の中の母を見つめ「母ちゃん、もうちょっと頑張ってみるね」と呟いた私でした。